



江南の子

令和4年度
第12号

教師冥利に尽きるとき…

校長 藤井 正人

22日の終業式及び23日の卒業式をもって、令和4年度の教育活動が全て終了いたします。少しずつ制限が緩和され「通常」が戻ってきたコロナ禍の3年目。完全とはいきませんが、ほぼ予定通りに教育活動を実施し所期の目的を達することができました。そして、ポストコロナが期待できる令和5年度の教育計画の原型・枠組をつくることができたことに安堵しております。保護者・地域の皆様には、コロナ禍中の当校の教育活動にご理解とご支援をいただいたこと、アンケート等で励ましや評価のお声を数多くお寄せくださったことに改めて心より感謝申し上げます。

「冥利」…ある立場・境遇でしぜんに受ける恩恵や幸福（広辞苑）。私達教師にとっての冥利は、やはり子どもたちの姿からもたらされます。

授業で準備に準備を重ねた教材がぴたりとはまり、子どもの探究心に火がついたときは「してやったり会心の冥利」を。学習や活動で目指していた規準を大きく超える姿を見せてくれたときは「うれしさ極上の冥利」を。日頃なかなか心が通じ合わない子が、けんかやいじめが起こった場面で立場の弱い友達に優しさを示してくれたときは「ほろっとくる感動の冥利」を。そんな様々な冥利を、この1年間、私達教職員は、子どもたちの姿からたくさん味わうことができました。

そして年度末は、より手応えのある冥利を得る場面がありました。例えば、全校に感謝の心が響き渡った「6年生ありがとう週間・集会」。例えば、一人一人にスポットライトが当てられて発表やパフォーマンスを披露した学習参観での授業。そのような場で担任は、1年間手塩にかけて育てた子どもたちの成長を実感するという冥利を味わいました。

6年生は学習参観の授業で、将来の仕事についてスピーチ発表をしました。その中で、ある児童が、興味のある職業として「小学校教師」を挙げました。真似したいのは、担任の姿と言っています。子どもたちに寄り添って一人一人の意見を気にしてくれる姿、休み時間に子どもと一緒に遊んだりお話をしたりする姿…。自分の姿が子どもの将来のモデルとなる。これこそが「教師冥利に尽きる」と表現していいでしょう。

実は、最近私にも福音がありました。3年国語で「学校自まん」紹介の学習があります。あるグループが、なんと私を取り上げてくれたのです。自慢したい理由として二つ。その一つが元気のいいあいさつ。「江南小学校は、校長先生のあいさつが欠かせません」と、おだててくれます。二つめが「いいねビーム」。「いいねビームをするとたくさんの笑顔が生まれます」と、泣かせてくれます。“あいさつバズーカ”と“いいね！ビーム”を4年間やり続けてきたことが報われました。まさに教師冥利に尽きました。

味わった冥利をエネルギーとして、今私達は、令和5年度の準備を進めています。